

【6年】

○=よい点

●=課題

<h2>国語</h2>	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書活動にすすんで取り組む児童が多い。 ○ 間違いを恐れずにすすんで発言できる児童が多い。 ● 読書活動に進んで取り組むこと、そうでない子の差が大きく語彙の獲得に個人差が大きい。 ● 漢字を正しく正確に書く力が不十分である。 ● 自分の考えや気持ちが伝わるように文章を正確に書く力が不十分である。 ● 自分の考えや意見を発表することに苦手意識をもつ児童が見られる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主語述語のつながりや接続語の正しい用法、段落構成技術の向上を図る指導の工夫 ・ 読書に親しませる時間を充実させる。 ・ 熟語、漢字の意味、言葉のきまりについての学習時間の十分な確保 ・ 新出漢字の指導の充実（書き順、熟語、漢字の意味） ・ 発表活動の充実（少人数での自由な会話から、全体での発表につなげる） ・ 要点や内容のつながりを意識して、文章を正しい構成で書く指導の充実 ・ 子どもたちが主体となって意見を交わす活動の充実
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをノートに書く習慣を身に付けさせるために、書く時間を十分に確保する。週末の宿題に「今週の一番」を書かせ、自分の気持ちを表現できるよう継続的に指導を行う。 ・ 読書貯金活動を通して読書の習慣を身に付けさせ、親しめるよう継続的に指導を行う。 ・ ムーブノートを活用し自分が書いた文章を多くの友達に読んでもらうことで伝えることの喜びにふれ、苦手意識をなくしていくよう継続的な指導を行う。 ・ 構成メモを書くように促し、短い言葉で要点をまとめて文章を書く指導をする。 ・ 朝のスピーチや国語科を中心とした全教育活動を通して、ペア学習やグループ学習を取り入れ自分の考えを表現する練習をしていく。

<h2>社会</h2>	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲的に資料を読み取り、日本の政治の仕組みや歴史について知ろうとしている。 ○ 歴史的な出来事への関心が高く、多くの知識を身に付けている。 ● 資料の読み取り自体はできているが、読み取ったことを言語化して表現するのが難しい児童が見られる。 ● 調べたことを国民の生活と関連させて考え、表現する力が不十分である。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な資料に触れさせる機会と資料解説の時間の確保 ・ 調べて分かったことを自分たちの生活と関連させ、自分の考えを表現する機会と時間の確保
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科だけではなく他教科でも様々な資料を扱い、視点を絞って資料を読み取る活動を多く取り入れることで、読み取る力の向上を図

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項と結びつけたり、国民の生活と関連させたりして考える活動を取り入れて繰り返し指導し、評価する。
--	--

算数	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題に対して既習事項を用いて答えを出すことに意欲的な児童が多い。 ○ 基本的な四則計算の技能が身に付いている。 ○ 問題の答えを求めた後も、別の方法を考えるなど意欲的に学習に取り組む児童が多い。 ● 小数の掛け算や割り算では、小数点を正しく付けることが苦手な児童が見られる。 ● 三角定規やコンパス、分度器を使って正しく図形を描けない児童が見られる。 ● 数直線を用いた演算決定の根拠について、筋道を立てて説明することが苦手な児童が見られる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角定規やコンパス、分度器を使って正しく図形を描く指導法の工夫 ・ 4年生までの学習内容の確実な定着を図る指導の充実 ・ 自分で考え、筋道を立てて説明する力の向上を図る指導の工夫 ・ 児童一人ひとりに応じた指導・支援の充実
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項を活用し、算数的な考え方をもとに自分で解決できるように指導する。 ・ コンパスや分度器などを正しく使えるように作図の指導の際には個に応じた指導を行い、技能の定着を図る。 ・ ノート指導を通して、図や数直線、式、言葉を使って自分の考えを表現できるように指導する。 ・ 単元後も学習した内容を東京ベーシックドリルやプリントで繰り返し学習することで、知識・技能の定着を図る。

理科	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然事象に対する関心が高く、日々の中で疑問を解決しようとする意欲が見られる。 ○ 実験道具を丁寧に扱い、理科室の注意点を意識しながら実験をすることができる。 ● 実験に意欲的に取り組んでいるが、実験からどのようなことが分かるのかを把握できず、見通しがもてない児童がいる。 ● 実験後の考察を書くことに苦手意識を感じている児童が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しがもてるような実験前の指導の工夫。 ・ 考察を書くために必要な情報提示の工夫。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験前の予想の活動で、どのような結果になりそうかを考える時間をとり、自分の中の実験イメージを固められるようにする。 ・ 「実験から分かる事実→問題に対する自分なりの答えとその理由」というように、考察を書く際の流れを提示して繰り返すことで、自分の考えを文章化する力を育てる。

家庭	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な活動に関心をもって取り組み、実習を楽しみにしている。 ○友達同士アドバイスしたり、助け合ったりして作業することができる。 ●裁縫・調理において、児童の日常生活の経験に差がある。 ●もっと良い方法があるかなど工夫の仕方を考えるなど、自分なりのやり方を考えたり、話し合ったりすることができる児童が少ない。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を製作する時間の確保 ・ 対話的・問題解決的学習活動の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の生活における基礎的・基本的知識や技能を身に付けるため、なるべく多くの時間を実習や体験的な活動に充てる。 ・ 個人差に配慮し、しっかり時間を確保した上で製作の見通しを立てさせ技能の向上に取り組む。 ・ 主体的に学ぶことを重視し、一つの手法だけを提示するのではなく、児童自ら工夫の仕方を考えることができるようにする。 ・ 制作や実習の際には、気付いたことを伝え合うように声をかけ、お互いの技能の向上を目指す。 ・ 家庭との連携を図り、学習内容を実生活に生かすように促す。

体育	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動や体育への関心が高い児童が多い。 ○ 自己の課題を把握し、具体的に動きを修正できる児童が多い。 ● 自己の課題を解決するために友達と関わりながらアドバイスしたり協力したりする児童が少ない。 ● すぐに修正できない課題の解決を諦めてしまう児童が見られる。 ● 日常的に体を動かそうとする児童とそうでない児童に分かれてしまっている。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育学習だけではなく、休み時間や放課後などにもすすんで体を動かそうとする意欲を高める指導の工夫 ・ 諦めずに取り組めるよう、児童の段階に合わせた指導方法の工夫 ・ 学習の中での、児童同士の対話時間の確保
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット等を用いながら、目指す動きのイメージをもつことができるように、体の部位や動かし方について具体的な学習資料を提示して教える。 ・ 運動実施時の体の動かし方に着目させ、動きの修正のための助言の方法を指導する。 ・ 克服的・達成的要素の高い運動内容については、その動きを身に付けるために、より簡単な学習の場や方法を提示して動きの高まりを実感できるようにする。 ・ 「できる」「できない」と短絡的に運動をとらえずに、これまでの動きと比較するなど、動きの高まりを判断するための視点を与える。

外国語	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語を使って友達とコミュニケーションを取ろうとしたり、すすんで表現したりしようとする児童が多い。 ○ 英語で話している内容を写真やイラストから推測して考えようとしている。 ● コミュニケーション活動の意欲に個人差があり、言葉の意味や言い方が分からないと日本語を使ってしまったり恥ずかしくて取り組めなかったりすることがある。 ● 単語や文、アルファベットを書くことへの抵抗感をもっている。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の音声を聞いたり話したりする機会の充実 ・ 英語を使って楽しくやり取りができる指導の工夫 ・ 単語や文、アルファベットを正しく判別する力を育成する指導の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が英語に慣れ親しみ、言葉の意味を十分に理解できるように ALT やデジタル教科書の音声を聞いたり、発音したりする時間を多くする。 ・ 定型文ではなく、日常生活や自分について伝えたいことをやり取りする機会を設ける。 ・ 継続的にアルファベットや単語をなぞったり、写したりする時間を設ける。

総合的な学習の時間	
■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べ学習に意欲的に取り組み、タブレット端末を上手に活用しながらアウトプットすることができる。 ● 課題について深めていく中で、多面的な視点で見ることや、多くの情報から必要な物を取捨選択する力に個人差がある。 ● 収集した情報をそのまま文章に書き写したり、言葉の意味を理解していないまま発表したりする児童がいる。 ● 調べたことを表現するとき、自分なりに工夫して表現することが難しい児童がみられる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら課題を設定し、協働して解決していく探求的な活動の充実 ・ インターネットを適切に活用し、必要な情報の選択や情報の正誤を判断する技能の向上を図る指導の工夫 ・ 互いに学び合い、高め合うための共有する活動の充実 ・
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の身近な話題をテーマに、解決したいという意欲をもてるような課題と単元計画を設定する。 ・ 話し合いや発表など、互いの学びを見合い、伝え合う場面を多く設定し、互いに伝える力や工夫していく力を高め合えるように指導する。 ・ 情報リテラシーを身に付けるために、他教科の学習内容と関連付け、正しい情報の選択の仕方や入手した情報の確かめ方についての指導を繰り返し行う。 ・ インターネットなどで調べた文章を児童なりに要約し、自分の言葉で説明できるよう継続的に指導していく。